

令和7年度習志野市いじめ問題対策連絡協議会 議事要旨

1 日 時

令和8年1月27日（火） 午後3時05分～午後4時10分

2 開催場所

習志野市庁舎5階 委員会室

3 出席者氏名

出席委員：小熊隆委員（会長）、宮本泰介委員（副会長）、三代川雄哉委員（19名） 太田元幸委員、田久保浩一委員、鈴木和弘委員、央重則委員 越智晃委員、佐々木秀一委員、松濱幸子委員、五十嵐久仁委員 渡邊恵美委員、加川美奈子委員、浅田和子委員、田口富一委員 野村健一委員、三角寿人委員、奥井良和委員、佐々木博文委員

欠席委員：白石健太郎委員、杉戸一寿委員、齋藤貴宏委員、片柳朗委員（6名） 田久保直子委員、中臺啓子委員

事務局：学校教育部次長 渡辺雅和、学校教育部指導課長 春名拓也 主任指導主事 櫻井智之、指導主事 辻本諒

傍聴者：なし

4 協議会内容

開会

第1 会議の公開

第2 会議録の作成等

第3 会議録署名委員の指名

第5 講演

「困難になりゆく生徒指導」

～関係機関との連携をスムーズに行うためには～

元千葉県警察 上席少年補導専門員 上條理恵 様

閉会

5 会議資料

・講演に関する資料

「困難になりゆく生徒指導」～関係機関との連携をスムーズに行うためには～

6 議事録（要点筆記）

開会

事務局より、設置条例により会長は教育長、副会長は市長をもってあてることや設置条例により協議会の会議は会長が招集し、会議の議長となることを説明した。

第1 会議の公開

会長より、協議会について原則公開になっている旨の説明をした。ただし、内容により、公開・非公開の判断が必要になった際は、その都度委員に諮ることとした。また、傍聴者については、定員に達するまでは随時入室があることについて説明した。

第2 会議録の作成

議事録について、要点筆記とし、会議名、開催日時、開催場所、出席者氏名、審議事項、会議内容、発言委員及び所管課名を記載したうえで、市ホームページ及び市役所グランドフロアの情報公開コーナーにおいて公開することと決定した。

第3 会議録署名委員の指名

会議録の作成にあたり、正確性、公正を期すため会議録署名委員を指名することとした。

会長の指名により名簿順に、太田元幸委員と田久保浩一委員に決定した。

第4 講演

講演 「困難になりゆく生徒指導」

～関係機関との連携をスムーズに行うためには～

【小熊会長】

講演について事務局から紹介をお願いします。

【櫻井主任指導主事】

本日の講師である上條理恵先生は小・中・高等学校の講師を務めた後、千葉県警察で上席少年補導専門員として勤務した。その後は、少年問題アナリスト、東京経営短期大学特任准教授、流山市教育委・生徒指導アドバイザーを歴任している。本日は先生の御経験から、『困難になりゆく生徒指導』～関係機関との連携をスムーズに行うためには～というテーマで御講演いただく。

【上條先生】

資料に基づき講演

【小熊会長】

各委員から講演に関して、質問・意見があれば伺う。
時間の都合上、挙手制でお願いします。

【越智晃委員】

袖ヶ浦西小学校の学校運営協議会の委員を務めている。今年度から分教室が開室され、当初は6名だったが、現在10名在籍している。何か関りたいと思い、モルックを子どもたちに教えた。運動会については、本校は午前中開催で、午後は分教室でスポーツ大会を開催し、モルックを行った。当日は4名の児童が参加し、1名は得点係であった。不登校の子どもとは感じられないくらい、普通にできた。当日は保護者も参観に来ていたので、家族対抗の形となった。

この他にも、公民館事業で門松づくりをしている。一緒にできなかったのも、別の日に行ったが、10人来てくれて、ミニ門松づくりを行った。これも、どこが不登校なのかわからないくらい、普通に取り組んでいた。

来年度以降、実施するかはまだ決めていないが、自分以外の人たち、地域の人や指導者も仲間として子どもたちに認めてもらうために、子どもたちの接し方については、今までどおりでいいのか、特別なやり方があるのか、と質問した。

(回答・講師より)

良い人のところには良い人が集まると言われている。自分のことを子どもが信頼してくれている場合には、次はこの人に相談しなさい、と人をつないで、自分は離れていく、ということを行っている。

委員が他の指導者と一緒にまわり、この人たちは仲間だと話したうえで、紹介していくのがよいと考える、と回答した。

【三代川雄哉委員】

2点質問させていただく。

1点目は、自死を考える子どもの話から、「考えたらわかることしかいない人ばかり。それであれば相談しない。」とあった。その後の説明で、「一緒に時間を過ごすことがよい」とあった。「考えたらわかることしか言わない人ばかり」の中で、例えばどのように声をかけたらよいのか。

2点目は、本日は習志野市で活躍している支援者が集まっている。各団体の支援に必要なことにおいて、「関係機関の共通理解」との話があった。同じ方法、歩幅、スピードということがあったが、これまでの経験から、他市の事例等、この習志野市が連携を取れるようなアドバイスをいただきたい、と質問した。

(回答・講師より)

1点目の回答

講師としては、率直に「あなたに生きてほしい」と伝えている。カウンセラーは否定できないから、この言葉は言えない。赤の他人でもあなたの心配をしていると伝える。生きるからできることを一緒に考える、と回答した。

2点目の回答

連携ができないから、連携を目指す。相手のことを尊重できるか、理解できるか、あの人に頼んでおけば大丈夫という思いであれば、いくらでも連携ができると考える。講師は「金持ちより人持ち」という信念をもっており、人とのネットワークが宝である。全ての人を尊重し、大切にし、感謝している。相手への感謝、会話の数と人間関係を考えると良い関係だと会話数は必ず多くなっているはずである、と回答した。

【渡邊恵美委員】

現在PTA会長をしており、保護者の様子、学校の教職員の様子を見ている中で、いじめについて、両方で認識を一致させて対応することは難しいと感じている。放課後の教職員が保護者との電話対応などで忙しくしている中で、学校に相談をためらう保護者からの相談も受けている。しかしながら、講演を聞く中で、初期対応が大事であり、早く報告することが、教職員も子どもも守ることにつながる、と理解した。今後、相談があった際にはそのように助言したい。また、トラブルの原因となる子どもには、自傷行為やオーバードーズにつながりそうな子どももいる。そこに関しても、講演の内容を踏まえ、助言してきたいと思う、と感想を述べた。

【央重則委員】

いじめ重大事態が市内で発生していると把握している。関係団体での支援という意味では、この協議会においても共有する必要がある。従来はいじめ問題対策連絡協議会においては、昨年1年間のいじめのデータを報告しているが、今回は無かった。データがあるのであれば、公開していただきたい。

(回答・小熊会長)

いじめの問題に関しては、どのような形で、本協議会において、話ができるのか、今後検討していく、と回答。

【小熊会長】

本日の講師である上條先生の講演は以前に先生が県警で努めている際にもお話を聞き、多くの学びがあった。ベースとケースの考え方は非常に心強く、間違った対応をしていなかったという思いで講演を拝聴した。

特にいじめの問題に関しては、本音の話で、現実に即した内容で、見方、聞き方によっては、学校や教育委員会に対して厳しい内容でもあったと思う。

事務局においては、講演の内容を、委員からの意見を真摯に受け止め、習志野市の教育行政の発展に努めていただくようお願いする。

また、各団体の委員においては、本日の内容を何らかの形で団体の関係者に伝えていただくよう、併せてお願いする。

閉会

【小熊会長】

本日の日程は以上となる。

令和7年度いじめ問題対策連絡協議会を閉会する。

7 所管課名

教育委員会学校教育部 指導課

電話番号 047-451-1132（内線390）